

金沢駅前・能登の魅力伝え隊

スタート部門

テーマ

能登×金沢 つながる商店街プロジェクト ～交流で育む復興と活性化～

1. 団体について

- ・団体名 金沢駅前能登の魅力伝え隊
- ・メンバー(6名、別院通り有志、MACSバレーサークル仲間、HALFTIME常連さん)

団体設立の目的

- ・能登半島地震で販路を失った商店の支援
- ・金沢駅前の商店街を活用した観光客誘致
- ・海外観光客、観光客に能登の魅力を発信し、復興支援へつなげる

今回応募した理由

金沢市と協力して、活動の認知を上げ地域を盛り上げ、能登、観光客、インバウンドの方々に喜んでもらいたい

2. 現状の課題・背景

・団体が考える現状の地域課題・背景

- ①能登半島地震の影響で商店が売上90%減、約3,000人が職を失う
- ②別院通り、横安江町商店街は観光客の交通ルートから外れ集客に苦戦
- ③能登復興支援の方法が限られ、継続性が課題

・解決するために考えたこと

- ①商店街に能登の商店を出店させ販路確保（出張輪島朝市）
- ②観光ルートを再設計し、別院通り・横安江町商店街へ誘導
- ③駅前の好立地を利用してインバウンド、観光客、地元の方が「食べる・飲む・買う」で復興支援出来る仕組みづくり

3. 企画の概要

- ・企画のねらい・コンセプト

別院通り、横安江町商店街を中心に能登マルシェの定期開催
インバウンド向け体験型観光の創出

学生ボランティアと協力した情報発信と通訳支援

- ・実施方法(隔月第三土日・予定場所:別院通り、横安江町商店街、駅周辺・実施形態:大学生ボランティア、能登から金沢に避難している方々・予定講師:小幡さん・スケジュール:2025年6月7、8日)

- ・事業効果

年間24,000人の集客を目標

4. 今後の展望について

・今回の事業は団体にとってどのような位置づけなのか

本事業は、能登復興支援と地域活性化の両立を目指す本団体にとって、最も重要な「実践と共感の拠点形成」であり、活動の核となる取り組みです。能登の商店や生産者にとっての新たな販路をつくと同時に、金沢駅前の空き商店街に人を呼び戻し、観光ルートに新たな価値を生む役割を果たします。また、若者・避難者・観光客など、多様な人々が自然に交わる「共助と交流の場」として、まちづくりの新しい形を提案するものです。

・今回の事業を通して、どのように活動の幅を広げていきたいのか

- ・「出張輪島朝市×HALFTIME」を定期開催し、地域行事として定着
- ・金沢市内の他地域（駅西・香林坊・ひがし茶屋街）への横展開
- ・学生・住民・企業が関われる「共創型の地域支援モデル」の確立